

見 る 知 る

じぶんの「まち」を

ミルシル



こもれびキッチン



活動の方法は様々

自分にできることを

今回の取材先は、高根沢こども食堂プロジェクトの「こもれびキッチン」です。こもれびキッチンは毎月第2土曜日にエコ・ハウスたかねざわで開催されています。毎回、30名を超える地域のボランティアさんたちが集結します。現在はお持ち帰りの希望が多く、取材日は180食分のハンバーグカレー弁当を作りました。活動を詳しく知りたい方はホームページをチェック！

高根沢 こども食堂

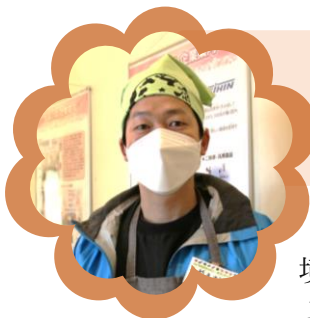


査で日本は、身体的健康では1位ですが、精神的幸福度は下から2番目とほぼ最下位なことからも明らかかなように異常な状況にあると言えます。大人の都合で子どもの口を塞いでしまっていないか。子ども周辺の環境には、子どもの声を聴ける余裕が必要だと感じています。

こども食堂で特別なことはしていません。ただ、みんなで食事を作り一緒に食べ、何気ないコミュニケーションをとる。そんな機会を作ることで、地域の大人と子どもが顔の見える関係になる。子どものことを気遣う大人を増やし、親を労うことができたらいいなと思っています。そのためにも、対面で食事をする開催場所や頻度を増やしたいと考えています。手伝いたい、空き家を使ってもいいよ、という方は是非ご連絡ください。

山崎周さん

高根沢こども食堂プロジェクト代表。町内にこども食堂を増やすための仲間を募集中。



子どもたちを取り巻く環境が昔とは違ってきているとよく耳にします。外で遊ばず

ゲームばかりしているとも言われますが、ドラえもんやサザエさんの世界のような遊べる空き地はなく、仕事をしながら大人が見守ってくれるような商店街も少なくなりました。公園では「子どもの声がうるさい」とクレームが入ったり、ボール遊びが禁止だったりします。学校教員は過労や欠員状態で、子どもたちの心身の不調に気づく余裕があるように見えません。先進国の子どもの幸福度調





江田 悦子さん

調理班。メニュー決めなどを行う3つの中心チームのうちの1つを担当。

活動のきっかけは？

令和4年5月に開かれた説明会に参加したことがきっかけで、調理班の活動を始めました。調理班の中には4～5人くらいで構成する中心チームが3つあって、順番にメニュー決めや食材の買い出しなどの事前準備をしています。実は、私が中心チームに入ったのは昨年12月からなんです。それまではずっと普通の調理班の一人として参加していたのですが、中心チームに空きが出てしまい、色々勉強になると思いやってみることにしました。すると、それまでは気が付かなかった「運営していくための努力」が見えてきました。代表の山崎さんや事務局の増田さんがあちこちに掛け合ってくれたり、JA女性部の方が食材を集めてくれたり、20人前後の調理ボランティアの方々が役割分担もなくスムーズに作業をしたり、そういった縁の下の力持ちの皆さんのおかげで活動できているのだと改めて感じています。

活動してみて良かったことは？

私がこの活動を通してやりたかったことの1つは、将来を担う子どもたちを応援すること。もう1つが、私自身が地域の人と交流することです。私は長年、宇都宮市へ通勤していたので知り合いといえど近所さんくらいしかいなかったのです。この先もここでずっと暮らしていくなら、もっと地域の人々と関わりを持たなければと思いました。実際に活動してみると、一緒に作業するボランティアの皆さんとのふれあいが本当に楽しいですね。色々な人がレシピを持っているので、料理のレパートリーが増えましたし、調理のコツなんかも教えてもらえます。食材を集めるために宝積寺地区の精肉店「ミートショップこしみず」へ相談に行ったときには親身に話を聞いてくれて、それでは子ども食堂のためにと、特別仕様のメンチカツを卸してくれました。ボランティア同士だけではなく、地域に新しいつながりを作れたことが嬉しいです。やりがいもあり、多くの出会いに感謝しています。これからも充実した活動ができるよう、私自身も努力していきたいと思っています。



宮島 重雄さん

配送班。出来上がった料理を弁当詰めし、受取スポットへ移動。申し込んだ親子へ弁当を手渡す。

活動のきっかけは？

子ども食堂に協力しているという知人から、配送役のボランティアが必要なのでやってみないかと誘われたんですよ。以前から、社会貢献をしたいなという想いもあったので参加することになりました。こもればキッチンではテイクアウト利用がほとんどなんですよ。それは、会場がある宝石台周辺の子ども達だけでなく、町全体をカバーするため。小学校区ごとにお弁当の受取スポットを作っているんです。私は図書館中央館へ届ける担当。直接、利用者と対面する役です。配送役になってみて意外だったのは、図書館の入り口でお弁当を渡していると、本を借りに来た一般の方がときどき声をかけてくれるんです。それで、子ども食堂の活動だと伝えると興味をもってくれる人もいて。地域にこうした活動があるということがどんどん広まって、町に子ども食堂が増えるといいですね。

活動してみて良かったことは？

こもればキッチンは、私がイメージしていた子ども食堂とは違っていました。いわゆる「子ども食堂」というと、貧困状態にある家庭の子ども達に食事を提供する場所だと思っていました。でもね、こもればキッチンはそうではないんです。経済的な状況に関わらず、子どもでも大人でも、誰でも利用することができるんですよ(※)。食事を通して人と交流できる場所、つながりを作る場所、それがこもればキッチンです。私はこの考え方が気に入っています。地域や、そこに暮らす人と接点を持てるのはとても良い。私はね、この高根沢町を子どもたちが胸を張って「自分のふるさとだ」と言えるような町にしたいんです。地域を好きになってもらうには、地域を知ってもらわないとね。人は、誰かに支えられて、また誰かを支えながら生きている。それに気づくことができれば、人との関わり方は変わります。みんなは1人のために、1人はみんなのために。この言葉をポリシーに、地域での活動を続けたいと思います。(※子どもがいる世帯を優先)

